中学歴史プリント（過去問類似）
安土桃山時代

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

得点 ／8

問1 1571年の比叡山延暦寺の焼き討ちや、1570年から10年にわたった石山本願寺との戦い、さらに各地の一向一揆の鎮圧といった織田信長が行った宗教政策の傾向として、最も適切な説明はどれですか。 （2019年　島根公立入試　類似）

1. 自らの天下統一を妨げる仏教勢力を徹底して弾圧する一方で、キリスト教の布教については許可して保護を与えた。

2. 仏教勢力の持つ軍事力を高く評価し、一向一揆を自らの軍隊に組み込むことで全国統一を有利に進めた。

3. キリスト教の拡大が日本独自の文化を破壊すると考え、仏教勢力と協力して宣教師を国外へ追放した。

4. すべての宗教に対して中立的な立場をとり、寺社や教会から軍事力を取り上げる代わりに多額の寄進を行って保護した。

問2 豊臣秀吉が発した法令において、農民から刀や鉄砲などの武器を没収する際、農民たちの反発を和らげるために示された「没収した武器の用途」に関する説明として正しいものはどれですか。 （2018年　奈良公立入試　類似）

1. 京都に建立する大仏の釘やかすがいなど、宗教的な建造物の材料として利用する

2. 鉄砲や槍を農具に作り替え、開墾を進めるための道具として農村へ再配布する

3. 没収した武器を明などの外国へ輸出し、その利益で飢饉に備えるための米を購入する

4. 朝廷に献上して武威を示すことで、天皇から全国支配の正当性を認めてもらう

問3 室町時代に京都を主な舞台として発生し、その後の社会に大きな影響を与えた「応仁の乱」に関する説明として最も適切なものを選びなさい。 （2015年　鳥取公立入試　類似）

1. 将軍の跡継ぎ問題や守護大名の対立が原因で始まり、戦国大名が各地で実力により領地を支配する「下克上」の風潮を強める要因となった。

2. 元軍による二度にわたる侵攻に対して幕府が御家人を動員した戦いであり、恩賞の不足から鎌倉幕府が衰退するきっかけとなった。

3. 源氏と平氏が政権をめぐって争った戦乱であり、勝利した源頼朝が鎌倉に幕府を開く直接のきっかけとなった。

4. 織田信長が足利義昭を追放したことで室町幕府が滅亡し、近世に向けた天下統一の動きが加速した。

問4 豊臣秀吉が「太閤検地」において、全国でバラバラだった「升（ます）」の大きさを統一したり、田畑の等級を定めたりした理由として、正しいものはどれですか。 （2017年　徳島公立入試　類似）

1. 土地の生産力を正確な「石高」として把握し、不公平なく年貢を徴収するため

2. 農民が自由に土地を売買できるようにして、農業の効率化を図るため

3. 武士が自分の領地で勝手に税率を決める権利を強めるため

4. 全国の測量技術を向上させ、正確な日本地図を完成させるため

問5 豊臣秀吉が役人を派遣して田畑の広さや等級を測らせ、その結果を記録して村ごとに作成させた、土地台帳の名称を何といいますか。 （2023年　奈良公立入試　類似）

1. 検地帳

2. 戸籍

3. 賦役黄冊

4. 土地台帳

問6 織田信長や豊臣秀吉の時代、姫路城に代表されるような壮大な天守を持つ城郭の内部を飾るために発達した、桃山文化を象徴する絵画の特色として最も適切なものを一つ選びなさい。 （2017年　奈良公立入試　類似）

1. 墨一色で自然や人物を簡潔に表現する水墨画の技法を用いた作品

2. 金箔をふんだんに使い、虎や松などのモチーフを鮮やかな色彩で描いた屏風画

3. 江戸時代の町人の風俗や流行を生き生きと描いた浮世絵の版画作品

4. 寺院の壁面を飾るために、金箔を一切使わず落ち着いた色調で仕上げた仏教絵画

問7 織田信長が楽市楽座を断行した背景として、最もふさわしい理由はどれですか。当時の経済状況や、信長が目指した国家運営の仕組みに触れながら考えなさい。 （2024年　静岡公立入試　類似）

1. 特定の商人が富を独占することを防ぎ、市場を活性化させることで、自身の軍事力や政治力の基盤となる豊かな城下町を築くため。

2. 仏教勢力などの宗教団体が持つ特権を保護し、宗教的な権威を利用して領国内の平穏を保とうとしたため。

3. 商人に武器の製造を依頼し、それを独占的に買い取ることで、他の戦国大名に対して軍事的な優位性を保つため。

4. 農民を商人として活用し、農閑期に商売を行わせることで、領民全体の収入を増やして一揆を防止するため。

問8 豊臣秀吉が全国的に実施した土地調査（太閤検地）において、それぞれの土地から予想される米の収穫量を表すために用いられた、米の容積を単位とする基準を何といいますか。 （2022年　山形公立入試　類似）

1. 石高

2. 貫高

3. 地価

4. 反別

答え合わせ・解説

問1	**答え 1** **自らの天下統一を妨げる仏教勢力を徹底して弾圧する一方で、キリスト教の布教については許可して保護を与えた。**	信長は、比叡山延暦寺や石山本願寺（浄土真宗）など、強大な軍事力や経済力を持ち自らに敵対した仏教勢力に対しては、焼き討ちや武力鎮圧といった徹底した弾圧を行いました。その一方で、南蛮貿易の利益を得ることや、新しい知識を取り入れること、さらには敵対する仏教勢力を牽制する意図から、キリスト教の布教については許可し、保護する姿勢をとりました。
問2	**答え 1** **京都に建立する大仏の釘やかすがいなど、宗教的な建造物の材料として利用する**	秀吉は刀狩令の中で、没収した武器を方広寺の大仏建立に役立てると説明しました。これにより、武器を差し出すことは現世の安全だけでなく、来世の幸福にもつながるという宗教的な「建前」を用いることで、農民からの抵抗を抑え、円滑に武器を回収しようとする狙いがありました。
問3	**答え 1** **将軍の跡継ぎ問題や守護大名の対立が原因で始まり、戦国大名が各地で実力により領地を支配する「下克上」の風潮を強める要因となった。**	応仁の乱は、室町幕府の第8代将軍・足利義政の継嗣問題や、有力守護大名である細川氏と山名氏の対立などが複雑に絡み合って発生しました。この戦乱により幕府の権威は完全に失墜し、地方では実力のある者が上の者を倒して勢力を広げる「下克上」が一般的となり、約100年続く戦国時代へと移行しました。他の選択肢は、蒙古襲来、治承・寿永の乱（源平の争乱）、室町幕府の滅亡に関する説明です。
問4	**答え 1** **土地の生産力を正確な「石高」として把握し、不公平なく年貢を徴収するため**	それまでは地域や領主ごとに測定基準が異なり、正確な生産量の把握が困難でした。秀吉は「京升」に基準を統一し、土地の良し悪しに応じた生産量を「石高」という単位で検地帳に記録しました。これにより、農民には年貢の負担義務を、武士には石高に応じた軍役（軍事的な負担）の義務を課す仕組みが確立されました。
問5	**答え 1** **検地帳**	太閤検地によって作成された公式の記録を「検地帳」と呼びます。ここには田畑の所在、面積、等級（上・中・下・下々）、石高、そして実際に耕作を行う農民の氏名が記載されました。検地帳に名前が載ることは、その土地の耕作権を保証されることでもありましたが、同時に政府に対して年貢を納める公的な義務を負うことも意味していました。
問6	**答え 2** **金箔をふんだんに使い、虎や松などのモチーフを鮮やかな色彩で描いた屏風画**	安土桃山時代の文化（桃山文化）は、戦国時代を勝ち抜いた武将の勢いや、海外貿易による富を背景にした、豪華で壮大な特色を持ちます。城郭の内部を飾るために、金箔を用いた「金碧障壁画（きんぺきしょうへきが）」と呼ばれる華やかな屏風画や襖絵が数多く制作されました。狩野永徳などがその代表的な絵師として知られています。これに対し、水墨画は室町文化、浮世絵は江戸文化の代表的な様式です。
問7	**答え 1** **特定の商人が富を独占することを防ぎ、市場を活性化させることで、自身の軍事力や政治力の基盤となる豊かな城下町を築くため。**	信長は、中世的な特権やしがらみ（座など）を排除し、実力のある者が自由に活動できる環境を整えることで、富を自身の城下町に集中させようとしました。経済的な繁栄は、強力な軍隊を維持するための財政基盤となり、天下統一に向けた大きな原動力となりました。
問8	**答え 1** **石高**	豊臣秀吉は全国の土地の広さや等級を統一した基準で調査する太閤検地を行いました。それまでは地域ごとに基準が異なっていましたが、予想される収穫量を「石」という単位で表すこの仕組みに統一されたことで、全国の生産力が明確になり、それを基に年貢の徴収や軍役の割り当てが行われるようになりました。